

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第十九主日礼拝

2020年10月11日

前奏：

招きのことば：詩編 27:4-6

ひとつのことを主に願い、それだけを求めよう。

命のある限り、主の家に宿り | 主を仰ぎ望んで喜びを得 | その宮で朝を迎えることを。

災いの日には必ず、主はわたしを仮庵にひそませ | 幕屋の奥深くに隠してくださる。

岩の上に立たせ | 群がる敵の上に頭を高く上げさせてくださる。

わたしは主の幕屋でいけにえをささげ、歓声をあげ | 主に向かって賛美の歌をうたう。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんください。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは私たち一人一人をあなたの与えてくださる御救いに招き入れてくださいました。自分で償えない罪をイエス様によって赦して、永遠のいのちの祝宴にお招きくださいました。神様から離れていると、生きる意味が見えず無気力で生きている実感を失います。人の温かさを求めて近づきすぎると、人の冷たさにつまづきます。人の心がわからず、傷つくことを恐れ、無力な自分が人目にさらされることを恐れて、自分から人に心を大きく開きません。そんなわたしたちに神様は御子イエス・キリストをつかわして、私たちへの愛を見せてくださいました。そして私たちを探し当ててイエス様のものでしてくださいました。イエス様という衣の中で、神様の愛と慰め、励ましと力をいただきます。そして私たちは、まだイエス様のことをよくご存じではない方々に、イエス様を信じて新しいいのちを生きていくお誘いをしていきます。主よ、今週も私たちを導いてください。愛し合い、高めあっていく交わりを育ててください。新型コロナウイルスの感染は縮小の気配がありません。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして澁刺とした日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：フィリピ 4章 1-9節

だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。

わたしはエボディアに勧め、またシンティケに勧めます。主において同じ思いを抱きなさい。なお、真実の協力者よ、あなたにもお願いします。この二人の婦人を支えてあげてください。二人は、命の書に名を記されているクレメンスや他の協力者たちと力を合わせて、福音のためにわたしと共に戦ってくれたのです。主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

福音書朗読：マタイによる福音書 22章 1-14節

イエスは、また、たとえを用いて語られた。「天の国は、ある王が王子のために婚宴を催したのに似ている。王は家来たちを送り、婚宴に招いておいた人々を呼ばせたが、来ようとしなかつ

た。そこでまた、次のように言って、別の家来たちを使いに出した。『招いておいた人々にこう言いなさい。「食事の用意が整いました。牛や肥えた家畜を屠って、すっかり用意ができています。さあ、婚宴においでください。』』しかし、人々はそれを無視し、一人は畑に、一人は商売に出かけ、また、他の人々は王の家来たちを捕まえて乱暴し、殺してしまった。そこで、王は怒り、軍隊を送って、この人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った。そして、家来たちに言った。『婚宴の用意はできているが、招いておいた人々は、ふさわしくなかった。だから、町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れて来なさい。』そこで、家来たちは通りに出て行き、見かけた人は善人も悪人も皆集めて来たので、婚宴は客でいっぱいになった。王が客を見ようと入って来ると、婚礼の礼服を着ていない者が一人いた。王は、『友よ、どうして礼服を着ないでここに入って来たのか』と言った。この者が黙っていると、王は側近の者たちに言った。『この男の手足を縛って、外の暗闇にほうり出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。」

讚美歌 286 番

- 1 神はわがちから わがたかきやぐら 苦しめるときの 近き助けなり
- 2 たとい地はかわり 山はうなばらの 中にうつるとも われいかで恐れん
- 3 神のみやこには 静かにながるる きよき河ありて み民をうるおす
- 4 御言葉の水は 疲れをいやして 新たなる命 あたえてつきせじ
- 5 神のみもとべは 常にやすらげく 苦しみ悩みも 消えてあとぞなき **アーメン**

説教：「すっかり用意ができています」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

神さまは私たちを神の国に招待してくださっています。うれしいですね。牛や肥えた家畜を料理して誰も味わったことのないような最上級のごちそうを用意してくださっています。楽しみですね。そこは王様の子ども、王子様がめでたく結婚をするという披露宴のようなところですよ。あなたを大切な賓客として招いてくださっています。あなたのためにとっておかれた席があるのです。そして、そのようなところにいたい私は何を着ていこうか、と私たちは悩むのですが、私たちが婚宴に着ていく服まで王様が与えてくださいます。私たちは身なりを整え、髪をといて、とても光栄な席に列席します。罪深い私たちはそのまま神様の御前に出ることは恐れ多く、恐ろしいことですので、躊躇することを神様はご存じです。神様は私たちに、イエス様という婚礼の服を用意してくださっています。それでも私たちに天の御国に来てほしいと思っておられるので、私たちの罪の罰を代わりに受けてくださったイエス様を私たちの衣として

与えてくださいます。この服、この衣は、ガラテヤ書3章27節によると私たちが受ける洗礼であることがわかります。洗礼によってイエス・キリストを着る、と記されています。

これはイエス様がお話になった一続きの天の国のたとえ話の最後のお話です。天国にあなたも招かれている、といううれしいはずのお話です。

ところが、ひどい人々が登場します。王さまが家来を遣わして、披露宴の準備ができました、と前もって招いていた人々を案内したのですが、来ようとしません。別の家来を使いに出し、もう準備が整いました、どうぞおいでください、と伝えましたが、人々は無視して自分の仕事に行ってしまう。ある人々はうるさい家来を殺してしまいました。

王さまは怒りました。彼らを処分し、別の人々を招きます。町の大通りで出会う人を誘うようにと命じます。礼服も与えたのでしょ。たくさんの方がお祝いに集まりました。善人も悪人もみんな集まっています。礼服を着て集まっています。王さまは喜びました。

しかし、婚礼の礼服を着ていない人がひとりいました。自分の服を着ていました。王さまはやさしく「友よ」と呼び、なぜ礼服を着ていないかを聞くと、黙って答えませんでした。自分の服で入ってきた理由を言えなかったようです。王さまはこの人を追い出しました。

せっかく招待されているのに、断ったり、追い出されたりするのはとても残念ですね。少し後味がわるいお話に聞こえます。イエス様はこのお話で何を教えたかったのでしょうか。

イエス様はこのときエルサレムにいました。日曜日にろばの子にのって入城し、救い主として期待する人々に迎えられました。このたとえ話はエルサレム神殿の境内で、イエス様に近づいてきた祭司長や民の長老たちとお話をしているときに語られました。このあと木曜日にイエス様はとらえられ、金曜日に十字架につけられて、殺されて葬られます。そして三日目の日曜日によみがえりました。天の国のたとえ話は、これから起こることの預言でもあり、祭司長や民の長老たちが自分たちの姿を見ることができるようにしたお話だったのです。

神さまは天の国に私たちが招待してくださっています。しかし、前もって招きの手紙を受け取っていた人々が、その日になって来ようとしませんでした。旧約聖書でやがて来られる救い主のことを聞いていましたが、イエス様が来られたのに受け入れませんでした。招きは無視して日常の仕事にでかけてしまいました。招待を無視するだけではなく、家来を殺してしまう人もいました。預言者を殺し、イエス様を指し示したバプテスマのヨハネも殺してしまいました。当時の祭司長や民の長老たちは、自分たちは天の国に行くことができるが、町の人々は乱れた

罪深い生活をしているので教えていかなければならない、と考えていました。その考えにあわないことを言うイエス様がとても目障りだったのです。

あなたはいかがでしょう。顔には出ませんが、みんな死んだら天国に行く、自分も何とかやっている、問題はこの世にいる間に悔いのない幸せな暮らしができるかどうかだ、と考えている人が多いようです。そこにイエス様が、罪を悔い改めて、救い主を信じるようにと言われると、そのお誘いは忙しい生活のあとまわしにして、とりあえず日常生活を営むという人々がいます。

せっかく聖書を読み、神様のみ言葉に親しみ、イエス様の十字架や復活があなたに与える約束を知っているながら、世の中の流れや自分の経験をもとに知らないうちに身につけている自分の考えに支えられて生きています。聖書のことばは参考になっていますが、土台になっていません。

自分は大丈夫、と根拠のない見通しを握りしめなくてもよくなりました。私たちのほんとうの姿をご存じの神様は、私たちにほんとうに必要なもの、すなわち罪の赦しを与えてくださいます。罪びとであるのに、イエス様によって確かに赦されて、神様の子とされて、信仰によってこの世で希望に包まれ愛に生き、イエス様が迎えにきてくださったら天の御国で用意された祝宴に、ただしく迎えられるます。

神さまは招いておられます。あなたのためにすべての用意をして招いておられます。自分の考えを土台にした不安定で不確かな歩みから救い出してください。あなたのために十字架で死んであなたの罪を赦し、あなたのために復活してあなたに希望のいのちを吹き込むイエス様を土台にして、赦された者、新しい命にあずかった者として、神の子として確信をもって歩む毎日に招いておられます。

神さまは忍耐深く、道を歩く人を招きます。イスラエルの人以外のすべての人を招きます。私たちもその中にいます。自分の服ではなく礼服を着れば、用意されている最上級のもてなしを受け、栄光の婚礼の席につくことができます。私たちは、自分の姿のままではなく、イエス様の御名によって洗礼を受けて、自前の服ではなく、イエス様を着せていただき、ただしいお招きにあずかった者として天の国の食卓に着きます。

なんと、そこに礼服を着ていない人がひとりいました。天の国に行きたいけど、神様を信じたり、神様があたえてくださった服を着ようとしない人です。それは、神様の招きを当然と思って、それなら神様の言われることに注意を向けなくても、自分の思いの通りに生きていこう、と考えている人でした。そのような自己中心な心のために、死んでよみがえってくださったイ

イエス様にあずかる招きを受けているのに、できればイエス様と関係ないところでクリスチャンとして生きていきたいと考えた人だったのです。

神さまは私たちを天の御国に招いてくださっています。また、そこに入る礼服であるイエス様も与えてくださっています。礼服をきせていただいた人は、礼服にふさわしいふるまいをします。自分流のクリスチャン生活ではなく、罪を赦して新しい命を与えてくださる主イエス様の衣にとどまって、イエス様の色に染まって、イエス様のように考え、話し、行っていく歩みをしましょう。

今週の歩みをお考え下さい。これまでの人生経験は、生きる知恵となって私たちの身につけています。それ自身が神様からの贈り物です。でも人生経験を土台にするのではなく、イエス様にある新しい喜びのいのち、人を大切にする新しい愛ある考え方、接する人に役に立つ新しい態度で一週間を歩んでいきましょう。イエス様に罪赦されて新しいいのちをいただいた栄えある喜びを、今日からあらたな心で歩むことをもって、神様は今週の歩みを天の御国の歩みとしていただきます。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讃美歌 239 番 献金 献金感謝の祈り

1. さまよう人々 たちかえりて あめなる御国の 父を見よや
罪とがくやめる ころころは 父より与うる たまものなれ
2. さまよう人々 たちかえりて 父なるみかみの みまえにゆき
まことの悔いをば いいあわせ 世人は知らねど 知りたまえり
3. さまよう人々 たちかえりて 主イエスの身許に とくひれふせ
わが主は憐れみ 御手をのべて こぼるる涙を ぬぐいたまわん
4. さまよう人々 たちかえりて 十字架の上なる イエスをみよや
血しおの滴る み手をひろげ 「生命を受けよ」と まねきたもう アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。**アーメン**

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああ、みさかえよ。**アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏